

CEFR に基づいたスピーキングテスト

—TEAP、ケンブリッジ英検、Progress の比較

藤田眞理子

1 はじめに

本稿では CEFR に基づいたスピーキングテストを 3 つ比較して、そこから得られる示唆について論じたい。CEFR の評価グリッドは日本の英語教育に根付きつつあるものの、そのスピーキングテストはまだ新しい。ここでは 2014 年に日本の高校生を対象として開発された TEAP (Test of English for Academic Purposes)、英語検定試験としては最も長い 100 年以上の歴史をもつケンブリッジ英検、そして、ピアソンが開発したコンピューターでスピーキングスキルを評価する Progress を比較する。

TEAP は上智大学と英語検定協会が開発したアカデミック英語試験で 2014 年 7 月から実施されている。ケンブリッジ英検は Cambridge English Language Assessment が開発・実施している検定試験であり、世界 130 カ国以上で年間 500 万人が受験している。Progress はピアソンが開発したコンピューターによる英語検定試験である。詳細は <http://product.pearsonelt.com/progress/#.WLFNpyiLShc> を参照されたい。

2020 年に大学英語入試は 4 技能入試となり、スピーキングテストが導入されるのではという期待と不安がある。また、どのようなテストがふさわしいのか議論の余地がある。一方、ケンブリッジ英検や TOEFL といった英語外部テストは日本の高校生にとって難しすぎる (In'nami その他, 2016) と指摘されている。その試験内容は高校で学ぶ英語のカリキュラムに基づいていないからである。つまり、高校生が学校で学ぶ英語と試験に出される英語の問題にはギャップがあるということである。TEAP はそのギャップを埋めるため、日本における高校までの英語学習を踏まえたうえで、そこからさらに大学での英語運用への「架け橋」(柳瀬&松平, 2014) となるように設計されているらしい。果たしてそうなのだろうか。TEAP、ケンブリッジ英検、Progress の評価項目、問題形式、そしてその内容を比較して表に書いてみた (表 2, 表 3 を参照)。

2 TEAP、ケンブリッジ英検、Progress の比較

2.1 「やり取り:spoken interaction」と「発表:spoken production」の 2 つを含んでいるか

CEFR ではスピーキングには「やり取り:spoken interaction」と「発表:spoken production」の 2 つのレベルがある。TEAP は試験官との対面式のテストで試験官の質問に受験者が答えるという「発表」の部分がほとんどで、会話を続けるストラテジーや「やり取り」の部分が評価されていないようである。表 1 が示すように、TEAP の当初はパート 2 の tests the ability to lead conversations という意図があったようだが、現在ではその部分は評価に入っていない。例えば、パート 2 のインタビューでは、4 つの質問を促すプロンプトはすでに文字化されて受験者に与えられており、「会話が続くような工夫」を評価されておらず、「質問を英語で作れるか」という点のみが評価されているようだ。そして 4 つの質問ができれば少なくとも受験生は A2 レベル以上であると評価される。

表 1 テスト内容 (10 min; face-to-face, one-on-one interview) (In'nami その他, 2016)

Part 1	Describing oneself (A2)
Part 2	Role-playing: Interviewing an interviewer (tests the ability to lead conversations) (A2-B1)
Part 3	Making a speech on current issues (B1)
Part 4	Responding to questions on current issues (B2)

TEAP とケンブリッジ英検の問題形式を比較すると (表 2 と表 3)、その違いは歴然としている。ケンブリッジ英検はペアワークがあり、試験官は会話には参加しない。話す順序や会話の展開は受験者たちで管理し、指定された話題について自分の考えや理由を述べるだけでなく、ペアとなった相手の考えを引き出し、対比したりして、双方向的なやり取りが評価される。相手との対話が続くように、説明を加えたり、質問をしたり、能動的に相手に働きかける姿勢が必要になる。つまり、議論の中で、適切な表現や会話を続ける上でのストラテジーが使えたかが評価される。

ケンブリッジ英検は CEFR の「やり取り」と「発表」の両方を評価しているが、TEAP は「発表」のみを評価しているといえないだろうか。TEAP に欠けている評価項目は interactive communication (ALTE, 2014) であり、問題形式の改善が期待される。

2.2 CEFR のバンドに沿った内容のテストか

TEAP は CEFR に基づいていると謳っているが、本当に CEFR のバンドと一致しているか検証が必要である。実際、TEAP は日本の英語学習と英語力の評価のギャップを埋めることができたかもしれないが、CEFR のバンドから乖離しているように思える。例えば、表 1 の Part 2 ができた受験生は B1 というバンドに属するとされ、Part 4 ができた受験生は B2 に属するとされている。しかし、表 2, 3 が示すように、ケンブリッジ英検の問題形式とその内容、そして評価項目と比べると、レベルに食い違いがあるのがわかる。ケンブリッジ英検も Progress も B1 レベルは「日常生活でなんとか‘get by’ やっていきけるが、海外の大

学の授業に参加するには不十分」というレベルを示し、B2 レベルは「海外の大学の授業に参加できるレベル」であると示している。よって TEAP の Part 4 はそのレベルではないことがわかる。また、ケンブリッジ英検の KET でブックレットをもとに受験者同士が情報を尋ねたり、相手の質問に答えたりするのは、TEAP の Part 2 と類似している。KET ではこの部分ができれば A2 のレベルであるが、TEAP では B1 のレベルと評価されるようだ。

問題のレベルを整理してみると、TEAP の Part 1 と 2 は A2 レベルで Part 3 と Part 4 は B1 レベルの問題であると言えないだろうか。もし、TEAP が示すバンドが CEFR のバンドとずれているとすればテストそのものの妥当性や信頼度にマイナスな影響をもたらすのではないか。

2.3 評価方法の比較

今後文科省は中学 3 年間で A2 に、高校 3 年間で B1-B2 に達し、B1 レベルで大学に入学することを目指しているようだ。B1 のバンドは非常に幅広く高校生で B2 に達するのはごく僅かの生徒である。つまり、同じ B1 レベルと評価しても実はその中には様々な差がある。Progress は CEFR のバンドを 10 点から 90 点に分け、細かい数値によって生徒の伸びを明確にすることでモチベーションを高める効果がある。TEAP のスピーキングテストを受ける高校生のほとんどは A2 か B1 かのどちらかに評価され、弱い B1 の生徒も B2 に近い生徒も同じ B1 として評価されている。Progress のように A2+ や B1+ を提示できるようになるとスピーキングスキルをより明確に分別できるようになるだろう。

3 最後に

TEAP の登場により、スピーキング力がもっと注目されるようになった。TEAP は今後英語教育にスピーキングを重要視するというプラスの波及効果を与えると考えられる。しかし、一方で、TEAP のスピーキングテストでは、比較的簡単に B1 という評価を得ることができたり、やり取りのストラテジーが重要視されていなかったり、またいったん B1 になったとしてもなかなか B2 になれないためモチベーションが下がるといったマイナスの効果もある。以上の問題をクリアし、信頼度と妥当性が高いスピーキングテストの開発を期待したい。

参考文献

- ALTE (Association of Language Testers in Europe). (2014). The CEFR grid for speaking.
http://www.coe.int/t/.../ALTE_CEFR_Speaking_grid_tests2014.doc/
- In'nami, Y., Koizumi, R., & Nakamura, K. (2016). Factor structure of the Test of English for Academic Purposes (TEAP®) test in relation to the TOEFL iBT® test, *Language Testing in Asia*, 6, 3.
<https://languagetestingasia.springeropen.com/articles/10.1186/s40468-016-0025-9>
- Nakatsuhara, F. (2014). A research report on the development of the test of English for academic purposes (TEAP) speaking test for Japanese university entrants—Study 1 & Study 2. Eiken Foundation of Japan.
http://www.eiken.or.jp/teap/group/pdf/teap_speaking_report1.pdf.
- Nakatsuhara, F., Joyce, D., & Fouts, T. (2014). A research report on the development of the test of English for academic purposes (TEAP) speaking test for Japanese university entrants—Study 3 & Study 4. Eiken Foundation of Japan.
http://www.eiken.or.jp/teap/group/pdf/teap_speaking_report2.pdf.
- University of Cambridge ESOL Examinations Research and Validation Group. (2009).
Examples of speaking performance at CEFR levels A2 to C2. Project overview.
University of Cambridge ESOL examinations
- PTE academic score guide version 4 (2012). Pearson.
http://pearsonpte.com/wp-content/uploads/2014/07/PTEA_Score_Guide.pdf
- 『ケンブリッジ英検 PET 実践問題集』. (2016). Z-Kai.
- 『ケンブリッジ英検 KET 実践問題集』. (2016). Z-Kai.
- 入江 泉. (2016). 『TEAP 技能別問題集ライティング/スピーキング』 旺文社.
- 文科省. グローバル化に対応した英語教育改革実施計画.
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf
- 柳瀬和明 & 松平知樹. (2014). 「The Test of English for Academic Purposes (TEAP) and the Can-do Statements Used in Test-taker Feedback TEAP の概要とフィードバックにおける能力記述文の作成について」 『JACET 全国大会要綱』 53, 60.

表 2 Speaking Rating Scale of TEAP, Cambridge Test, and PTE Academic

評価基準	A2
<p>TEAP</p> <ul style="list-style-type: none"> -発音 -文法の範囲と正確さ -語彙の範囲と正確さ -流暢さ -受け答え 	<p>-Speech mostly intelligible; heavy L1 influence on stress, intonation, and individual sounds; some evidence of back-channeling in Part 2. (アクセント、抑揚、個別の音に母国語の影響が大きい。いくつかの発音の誤りがコミュニケーションの妨げとなっている)</p> <p>-Uses some basic grammatical structures and memorized phrases accurately; makes systematic errors. (決まった間違いがある)</p> <p>-Vocabulary limited to routine, everyday exchanges; incorrect word choice and/or lack of vocabulary frequently impede communication. (誤った言葉の選択、または語彙力のなさがコミュニケーションの妨げになっている)</p> <p>-<u>Speaks very slowly</u> with frequent reformulation; <u>hesitation very noticeable</u> and frequently demands patience from listener. (詰まる場面が多く見受けられ、聞き手が頻繁に待つ必要がある)</p> <p>-Almost entirely dependent on examiner; does not signal communication problems effectively; limited attempt to carry out Part 2. (ほぼ完全に面接官頼りになっている。コミュニケーションが頻繁に行き詰まる。やりとりがうまくいかない場合、効果的に示すことができない。パート2 (インタビュー) での取り組みが乏しい)</p>
<p>Cambridge 英検</p> <ul style="list-style-type: none"> -文法と語彙 -会話のやりとり -発音 -相互コミュニケーション 	<p>Relates basic information on, e.g. work, family, free time etc. Can communicate in a simple and direct exchange of information on familiar matters. Can make him/herself understood in very short utterances, even though <u>pauses, false starts and reformulation are very evident</u>. Can describe in simple terms family, living conditions, educational background, present or most recent job. Uses some simple structures correctly, but <u>may systematically make basic mistakes</u>. (躊躇い、出だしのつまずき、言い直しが頻繁にあり、決まった間違いがある)</p>
<p>Progress by Pearson</p>	<p>Can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.</p> <p>Can describe in simple terms aspects of his/her background, immediate environment and matters in areas of immediate need.</p>

B1	B2
<p>-Speech intelligible; <u>noticeable L1 influence</u> on stress, intonation, and individual sounds (アクセント、抑揚、個別の音に母国語の影響が見受けられる)</p> <p>-Mostly uses basic grammatical structures accurately; <u>errors occur when attempting complex grammatical forms.</u> (複雑な文法形式の場合に間違いがある)</p> <p>-Vocabulary sufficient for everyday topics; <u>incorrect word choice occasionally impedes communication.</u> (言葉の選択の誤りがときどきコミュニケーションの妨げになる)</p> <p>-Speaks slowly with some reformulation; <u>hesitation noticeable and occasionally demands patience from listener.</u> (何回か言い直しをしながらゆっくり話している。詰まる場面が見受けられ、聞き手がときどき待ってあげる必要がある)</p> <p>- Sometimes dependent on examiner; <u>signals communication problems effectively, but awkwardly; some evidence of back-channeling in Part 2.</u> (ときどき面接官頼りになっている。やりとりがうまくいかない場合はぎごちなく示す。パート2ではいくつか相づちが見受けられる)</p>	<p>-Speech easy to understand; accurate stress and intonation; some L1 influence on individual sounds (いくつかの個別の音に母国語の影響が出ている)</p> <p>-Sufficient range of grammatical structures to deal with the range of functions required in the test; very few grammatical mistakes</p> <p>-Range of vocabulary sufficient to deal with the full range of topics presented in the test; <u>word choice occasionally incorrect.</u> (言葉の選択をときどき誤る)</p> <p>-Speaks at natural speed; only occasional hesitation. (ときどき詰まる)</p> <p>-Effective active and receptive communication; indicates communication problems naturally and effectively; gives relevant comments in Part 2. (パート2では面接官の回答を次の質問に取り入れている。または、それに関する感想を述べる)</p>
<p><u>Relates comprehensibly the main points he/she wants to make.</u> Can keep going comprehensively, even though <u>pausing for grammatical and lexical planning and repair may be very evident.</u> Can link discrete, simple elements into a connected sequence to give straightforward descriptions on a variety of familiar subjects within his/her field of interest. Reasonably accurate use of main repertoire associated with more predictable situations. (文法や語彙の言い直しがあるが全体的に言いたいことを伝えることができる)</p>	<p><u>Expresses points of view without noticeable strain.</u> Can interact on a wide range of topics and produce stretches of language with a fairly even tempo.</p> <p>Can give clear, detailed descriptions on a wide range of subjects related to his/her field of interest. <u>Does not make errors which cause misunderstanding.</u> (目立つ緊張なく意見を表現し、誤解を引き起こすような間違いはしない)</p>
<p>Can deal with most situations likely to arise whilst traveling in an area where the language is spoken; Can produce simple connected text on topics which are familiar or of personal interest; Can describe experiences and events, dreams, hopes and ambitions and briefly <u>give reasons and explanations for opinions and plans.</u></p>	<p>Can understand the main ideas of complex text on both concrete and abstract topics, including technical discussions in his/her field of specialization; Can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with native speakers quite possible without strain for either party; <u>Can produce clear, detailed text on a wide range of subjects and explain a viewpoint on a topical issue giving the advantages and independent disadvantages of various options.</u></p>

表3 問題の形式と内容比較

CEFR の レベル	TEAP 約 10 分 受験者 1 人 対 試験官 1 人
B2	<ul style="list-style-type: none"> ● Q&A さまざまな話題についての質問を答える (4分) <p>例 Should parents limit children's use of the Internet? Are e-books better than printed books? Is it important to make friends from other countries? Do you think Japanese people work too much? Do you think public libraries are no longer necessary?</p>
B1	<ul style="list-style-type: none"> ● 一つのテーマに沿った1分スピーチ <p>例 "Living in the countryside is healthier than living in the city." Do you agree with this statement? Why or why not? "Young people today are not ambitious enough." Do you agree with this statement? Why or why not? "It is good to teach English in Japanese elementary schools." Do you agree with this statement? Why or why not?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受験者が試験官にインタビュー <p>(まずインタビューをする相手についての説明がある。その後、質問のリストが書かれたトピックカードを渡される。30秒で準備したら、そのリストに沿ったインタビューを開始する)</p> <p>例 試験官: Now I'd like you to interview me. Here are the instructions. For a class report, you will interview a high school teacher, and I'm the high school teacher, OK? トピックカードには以下の内容が書かれている。Begin your interview with this sentence: "Hello, may I ask you some question?" Ask questions about: the grade he/she teaches, the subject he/she teaches, problem in class, advice for future high school teachers (If you have time, you may ask more questions.)</p> <p>受験者: Hello. May I ask you some questions? <u>Which grade do you teach?</u> 試験官: I'm teaching first-year students. 受験者: <u>What subject do you teach?</u> 試験官: I teach English writing. 受験者: <u>Do you have any problems in your class?</u> 試験官: Yes. Students get sleepy in the afternoons. 受験者: I see. <u>Do you have any advice for future high school teachers?</u> 試験官: Yes. Teachers should be patient with their students but also with themselves. 受験者: Thank you very much.</p> <p>下線部のように4つの質問がつくれるかどうかの評価の焦点になっている</p>
A2	<ul style="list-style-type: none"> ● 受験者に関する質問3つに答える <p>例 Do you like to watch movies? When you were a junior high school student, which subject did you like the most? What do you like to do when you are at home? What do you usually do after school? Is there any country you want to visit in the future? On the weekends, do you go to bed early or late? Which do you like better, spring or winter? In the future, what kind of career would you like to have?</p>

ケンブリッジ英検 受験者 2 人 対 試験官 1 人 & 評価者 1 名	Progress ピアソン Computer-based
<p>FCE</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Interview 話す時間は 2 分 ● Long turn 写真 2 枚について説明する(4 分) ● Collaborative Task もう一人の受験者と意見を交わす(3 分) ● Discussion もう一人の受験者と意見を交わす(4 分) 例 What do you think is the biggest advantage of living in a place where there are a lot of tourists? 	<p>テストの問題は受験者の解答に応じて出題内容が変化するように開発されている。4 スキルを測るテストで、試験時間は 30 分。自動採点システムにより数分で結果を算出する。テスト結果のスコアは The Global Scale of English (GSE) というスケールで、それは CEFR のバンドを 10 点から 90 点の間に細かく直したものである。</p>
<p>PET</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 試験官との質疑応答 (2-3 分で 6 問) <p>例 試験官 What do you want to be in the future? Have you ever been abroad? What is your English teacher like?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受験者同士で試験官が述べる特定の話題について、話のヒントとなる複数の <p>絵を見て対話する (2-3 分) 相手とのやり取りが重要になり、発言を正しく聞き取り、同意や相づちの表現を用いて話をつなげる。</p> <p>例 試験官 : A young woman is going to visit the beach for the weekend, but she can't swim. Talk together about the different things she could do at the beach and say which would be most fun for her. Here is a picture with some ideas to help you.</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 何らかの状況にある人の写真を見て、英語で説明する。(1 分) <p>例 試験官 : I'd like each of you to talk on your own about something. I'm going to give each of you a photograph of someone sitting alone.</p> <p>例 写真に映っている人、物などから人が何をしているか、色、服、時間、天気などをできるだけ詳しくもう一人の受験者に伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前の問題に関連したテーマについて、もう一人の受験者と意見を交わす。(3 分) <p>例 試験官 : I'd like you to talk about together about what you do when you are alone or when you have free time.</p> <p>相手とのやり取りが重要になり、発言を正しく聞き取り、同意や相づちの表現を用いて話をつなげる。</p>	<p>GSE 10-21 <A1 GSE 22-29 A1 GSE 30-35 A2 GSE 36-43 A2+ GSE 36-42 B1 GSE 43-58 B1+ GSE 59-66 B2 GSE 67-75 B2+ GSE 76-84 C1 GSE 85 以上 C2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スピーキングテストの問題形式 <p>Describe image 写真を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他のスキルと統合したスピーキングテストの問題形式 <p>Read and speak 文を音読 Listen and speak 文を聞いてレポート Listen and speak 話を聞いて自分の言葉で言い直す</p>
<p>KET</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 試験官との質疑応答 <p>例 How do you spell your name? What is your hobby? Tell me something about your favorite teacher.</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブックレットをもとに、ペアの受験者に情報を尋ねたり、相手の質問に答えたりする。解答するブックレットには日常生活や身近な話題について書かれた広告や張り紙、宣伝カードなどが渡される。 <p>例 受験者 A: How many books do you have at your bookshop? 受験者 B: We have one thousand books.</p>	